

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	伊万里市立松浦小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の主体的な学びを目指して、算数科を中心に校内研究を進めた。伝え合う場面において対話活動の様々なスタイルの中から選択し、授業を重ねていくうちに児童は対話の方法に慣れ、少しずつ自分から進んで活動する姿が見られるようになってきた。ICT機器が導入されてコミュニケーションの仕方は様々であるので、対話や交流、共有の仕方を広げていくことも大切であると考えている。</li> <li>心のアンケートの実施、連絡会での気になる児童の情報共有を行いいじめ等の未然防止、早期発見、早期対応、再発防止に努めた。また不登校及び不登校傾向の児童についても全職員で共有できた。不登校及び不登校傾向児童や特別な支援を要する児童については、今後もケース会議を開く等組織として対応していく。</li> <li>2年～4年生において、松浦コミュニティセンターと連携し、地域人材を活用した郷土についての学習を行うことができた。今後は、1・2年生の昔遊び等、地域人材との交流をよりよい形で設定していけるようにしたい。</li> </ul>
------------------	---

2 学校教育目標	よく学び、よく鍛え、心やさしい児童の育成
----------	----------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇あいさつや返事を自然にできる子ども</li> <li>〇互いに考えを出し合い、高め合おうとする子ども</li> <li>〇他人の人権を守る子ども</li> </ul>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
				評価	意見や提言			
●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇基礎的・基本的な内容の定着を図る。</li> <li>〇自分の考えをもち、考えを広げたり深めたりするための学び合い活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇基礎的・基本的な内容の問題(評価テストなど)の正答率80%以上にする。</li> <li>〇ペアやグループで話し合う活動で自分の考えを話すことができるように導入場面を丁寧に設け、問題場面を把握して自分の考えをもてるようにする。「自分の考えをもって話し合いに向かえ」という問いに列して85%以上の児童が肯定的な回答ができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学ぶ指導方法の研究を通して、授業改善及び指導力の向上を図る。</li> <li>・導入場面で問題の意味をつかむ時間を確保した上で、ペアやグループで自分の考えを伝え合う場を設ける。</li> </ul>					学力向上対策 コーディネーター
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</li> <li>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</li> <li>●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各学年1回以上、自他の人権を守る大切さを学ぶ授業を実施する。</li> <li>●児童アンケート「友だちの気持ちを想像して声をかけたり見守ったりすることができたか」の割合を80%以上にする。</li> <li>●あいさつ強化月間における調査で目標達成率80%以上にする。</li> <li>●児童全員との個別面談を実施する。</li> <li>●児童の様子や対応を共通理解するための職員全体での話し合いの場を定期的に設定する。</li> <li>●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童70%以上にする。</li> <li>●自分のことを理解し、自分のことが好きと回答した児童70%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通教材を用いた全学年での人権学習や人権教室を実施する。</li> <li>・夢の広場(人権教室)の年間計画を立案し、全職員で実施する。</li> <li>・年間を通して「ありがとうの木」「かがやきの木」を掲示し、感謝する心や思いやりの心等の意識付けを行う。</li> <li>・年3回あいさつ強化月間を設定し、クラスで目標を立てて取り組むことで、あいさつへの意識づけを行う。</li> <li>・「心のアンケート」を実施するとともに、担任が児童と個別面談を行う期間を年間に2回設定する。</li> <li>・毎週の職員連絡会で、気になる児童についての共通理解を図り、必要に応じてケース会議等を開く。</li> <li>・学校生活の中でどの児童も活躍できる場を作り、授業の振り返りや帰りの会などで教師も子どもの良いところをほめる。</li> <li>・帰りの会の良いところ見つけや道徳や学活などで自分の良さについて考える機会を設け、その活動を継続していく。</li> </ul>					児童生徒支援教員 人権・同和教育担当 生活指導主任
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「運動習慣の改善や定着化」</li> <li>●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運動が好きになった、前より運動をしようになった児童が80%以上を目指す。</li> <li>●健康調査「毎日、朝ごはんをたべることができましたか」の好意的評価を95%以上にする。</li> <li>●きらきらかあど「朝ごはんを食べる」の好意的評価を95%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回外遊び週間を設け、外遊びを奨励する。</li> <li>・昼休みに外で遊ぶように声掛けをする。</li> <li>・マラソントイムや長縄跳びタイムの時間を設ける。</li> <li>・早寝、早起き、朝ご飯の大切さを、保健だよりや掲示物を通して呼びかける。</li> <li>・栄養教諭の食育の授業や講話を計画し、実施に合わせて朝食週間を設け、より良い生活習慣の確立を図る。</li> </ul>					体育主任  保健主事 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業務効率化の推進と時間外在在等時間の削減</li> <li>●成績二期制に相応した学校行事や会議等のスリム化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教育委員会規則に掲げる時間外在在等時間(2時間)を遵守する割合を85%以上にする。</li> <li>〇1つ以上の精選及び1つ以上のスリム化を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週金曜日を定時退勤日とし、17時施錠を原則とする。</li> <li>・一人一人が自分の仕事のやり方を見直し、タイムマネジメントを行う。</li> <li>・事後の反省をもとに振り返りを行い、改善策を考え、PDCAサイクルを機能させる。</li> <li>・ICT機器を使い、時間短縮を図る。</li> </ul>					教頭、事務口  教務主任口
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
				評価	意見や提言			
●コミュニティ・スクールの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎地域人材を生かした体験活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎コミュニティセンターと協力し、地域人材を生かした学習を年に1回以上行う。</li> <li>◎地域人材を生かした体験活動を通して、地域や地域人材のよさに気づくことができた児童を80%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年において地域学習について、ゲストティーチャーを積極的に招く。</li> </ul>					ボランティア担当 特活主任 生活科・総合的な学習の 時間主任
○伊万里市就学支援委員会の目的と進め方の共通理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全教職員による支援を要する児童の理解と支援に対する共通理解</li> <li>○教員の専門性と意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○支援を要する児童のための理解の場の設定と、必要に応じたケース会議の実施の割合を100%にする。</li> <li>○職員アンケート「年度当初と比べ、特別支援教育に関する専門性が向上したと思う」の割合を80%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨機応変なケース会議を開催し、毎週の職員集会等により情報を共有する。</li> <li>・発達障害等に関する研修会を年2回以上実施する。</li> </ul>					特別支援教育 コーディネーター
○ICT利活用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伊万里市プログラミング教育「コアカリキュラム」の実施</li> <li>○ドリルアプリの積極的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年に示す「コアカリキュラム」の内容を確実に実施する。</li> <li>○週に一回はドリルアプリを利用する割合を100パーセントにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT支援員と連携し、隔週に1回プログラミング教育をはじめとするICT関連の授業を実施する。</li> <li>・週2回の算数タイムのうち、1回はEライブラリの算数学習に取り組む。</li> </ul>					情報教育コーディネーター

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育</li> </ul>
--------------------	--